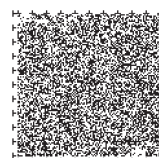


KASUKABE

第2部 人口ビジョン



第2部 人口ビジョン

第1章 はじめに

1. 人口ビジョンの趣旨

わが国の総人口は、2008年（平成20年）の1億2,808万人をピークに、減少局面に入っています。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計によると、2065年（令和47年）には8,808万人まで減少するとされています。

このような人口減少の克服を目指し、国では「2060年（令和42年）に1億人程度の人口を確保する」ことを目標に、まち・ひと・しごと創生法を施行するとともに「長期ビジョン」を定めました。また、国は、全国の地方自治体に対しても、各々の地域の特性に即した「人口ビジョン」の策定を求めました。これを受け、本市では、2015年度（平成27年度）に「春日部市まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン編」（以下「旧人口ビジョン」という。）を策定し、2060年（令和42年）における人口を189,181人と展望しました。

しかしながら、「旧人口ビジョン」の策定以来10年近くが経過し、人口の自然動態および社会動態などに変化が生じていることから、「人口ビジョン」見直しの必要性があります。

そこで、本計画の一部として「人口ビジョン」を見直し、新たに2070年（令和52年）における本市人口の将来展望を示すこととします。

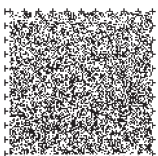
2. 人口ビジョンの位置づけ

「人口ビジョン」は、本市における少子高齢化および人口の減少に歯止めをかけるため、今後目指すべき人口の将来展望を示すものです。人口の将来展望は、本市の施策・事業展開の基礎となるものであることから、「人口ビジョン」を本計画の一部として定めます。

また、「人口ビジョン」は、今後の人口動態や社会経済情勢の変化に伴い、総合振興計画基本計画の策定の際などに、あわせて見直すものとしします。

3. 人口ビジョンの期間

2015年度（平成27年度）に策定した「旧人口ビジョン」から10年近くが経過していることから、推計期間を延長し、2070年（令和52年）までを対象期間とします。



第2章 人口の推移および人口動態

1. 人口の推移と過去の推計との比較

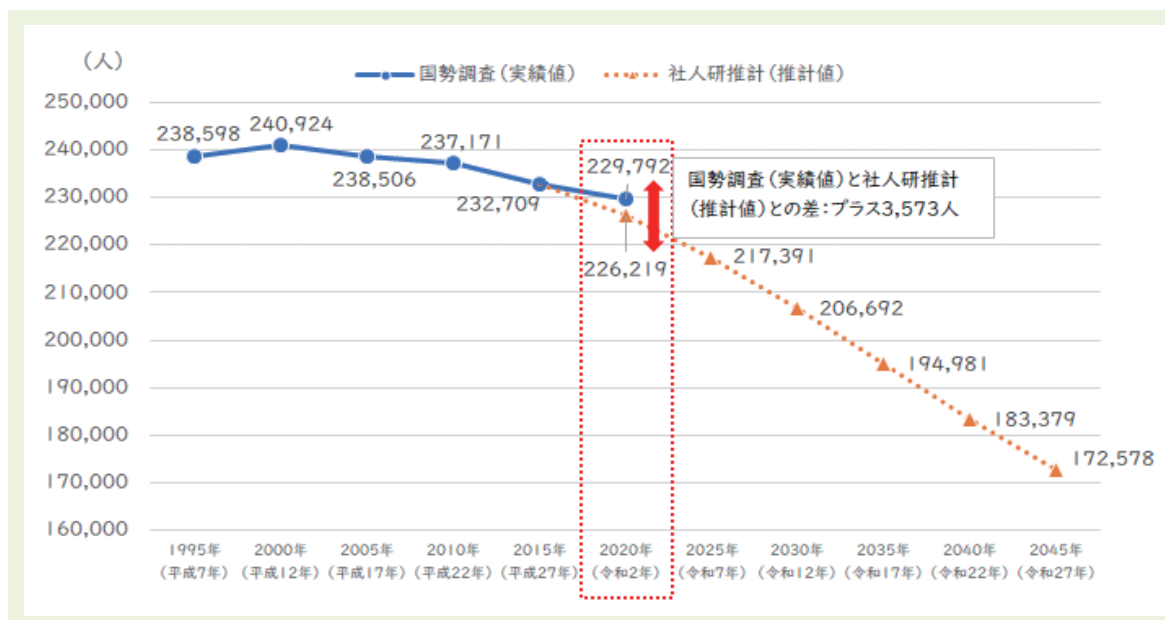
(1) 総人口の推移と社人研推計との比較

社人研は、2020年（令和2年）10月1日時点での本市人口を226,219人と推計し、その後は急激な人口減少局面となって、2045年（令和27年）には172,578人まで減少するとしています。

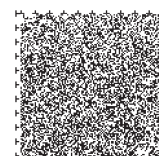
一方、2020年（令和2年）国勢調査（10月1日時点）によれば、本市の人口は229,792人であり、国勢調査による実績値が社人研による推計値を約3,600人上回る結果となっています。

このことから、本市の人口は国（社人研）の推計ほどには減少しておらず、より緩やかな減少傾向にあるといえます。

【図表 国勢調査による総人口の推移と社人研推計との比較】



出展：総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）および社人研「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年推計）



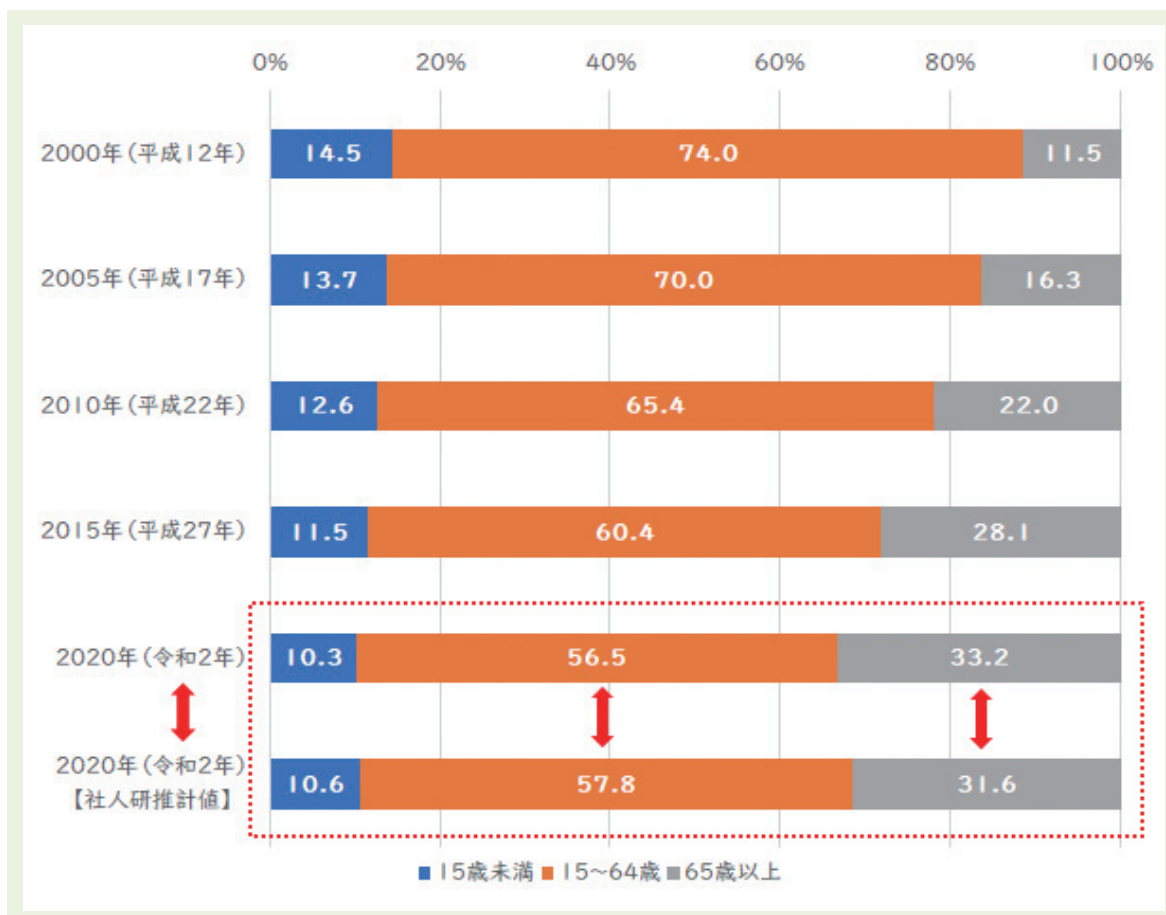
(2) 年齢3区分人口の推移と社人研推計との比較

社人研は、2020年（令和2年）における本市65歳以上人口割合を31.6%と推計しています。

一方、2020年（令和2年）国勢調査によれば、本市の65歳以上人口割合は33.2%であり、国勢調査による実績値が社人研による推計値を1.6ポイント上回る結果となっています。

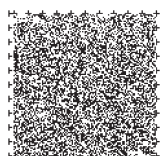
本市の人口は、社人研推計よりも高齢化が進んでいるといえます。

【図表 国勢調査による年齢3区分人口の推移と社人研推計との比較】



注) 人口構成比については、年齢「不詳」の者を除いて算出しています。

資料:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)および社人研「日本の地域別将来推計人口」(平成30(2018)年推計)

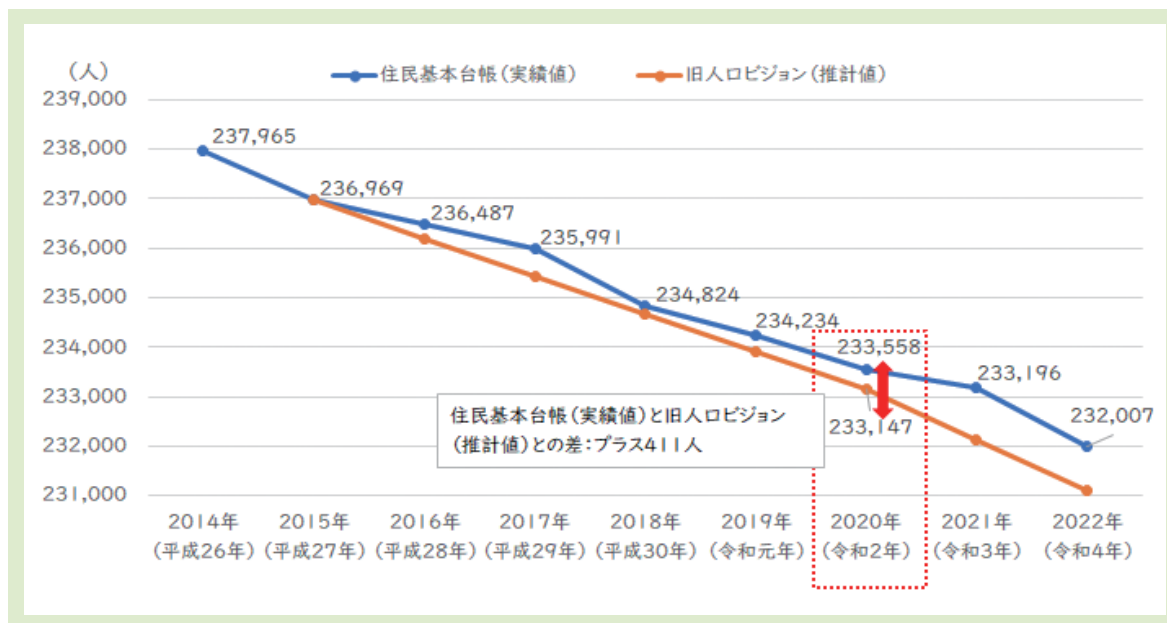


(3) 総人口の推移と旧人口ビジョンとの比較

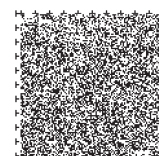
旧人口ビジョンでは、2020年（令和2年）10月1日時点での本市人口の展望を233,147人としています。

一方、住民基本台帳によれば、2020年（令和2年）10月1日時点の本市人口は233,558人であり、実績値が推計値を約400人上回る結果となっています。

【図表 住民基本台帳による総人口の推移と旧人口ビジョンとの比較】



資料：春日部市「住民基本台帳人口」（各年10月1日現在）および「春日部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」2015年度（平成27年度）

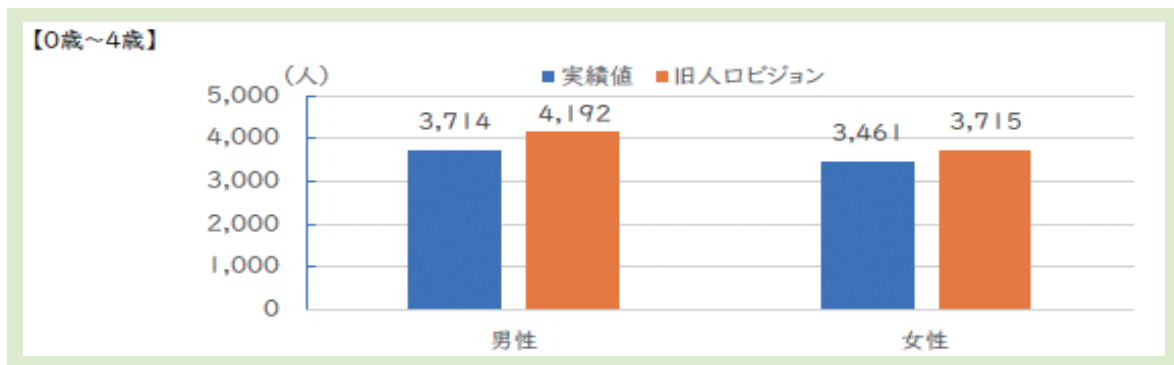


(4) 年齢5歳階級別人口と旧人口ビジョンとの比較

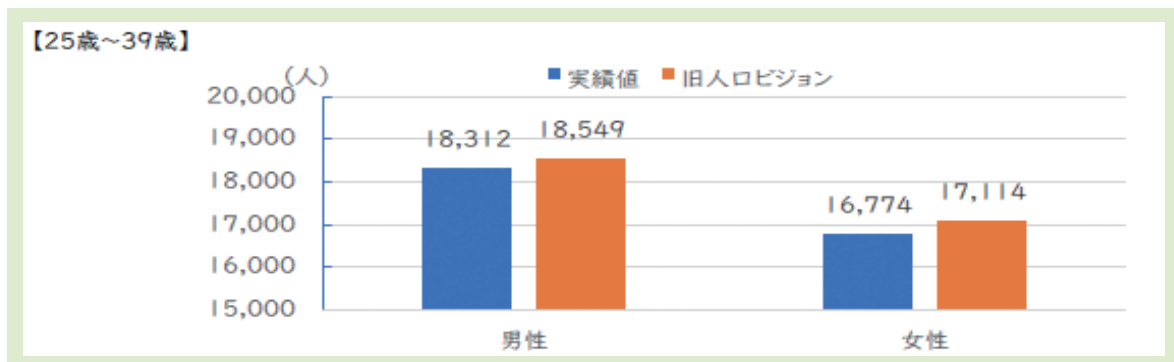
2020年（令和2年）における男女別・年齢5歳階級別人口の実績値と、旧人口ビジョンの推計値を比較すると、男女いずれも0歳～4歳、25歳～39歳は推計値よりも少なく、75歳以上は推計値よりも多いことがわかります。特に、0歳～4歳では、実績値が推計値を男女合計で700人以上も下回っています。これは、子どもを産み育てる世代である25歳～39歳が推計値を下回っていることが影響したとみられます。

以上のことから、本市の総人口は推計値を上回ってはいるものの、それは75歳以上人口の多さによるところが大きく、子どもと子育て世代は反対に推計よりも少ないということがわかります。

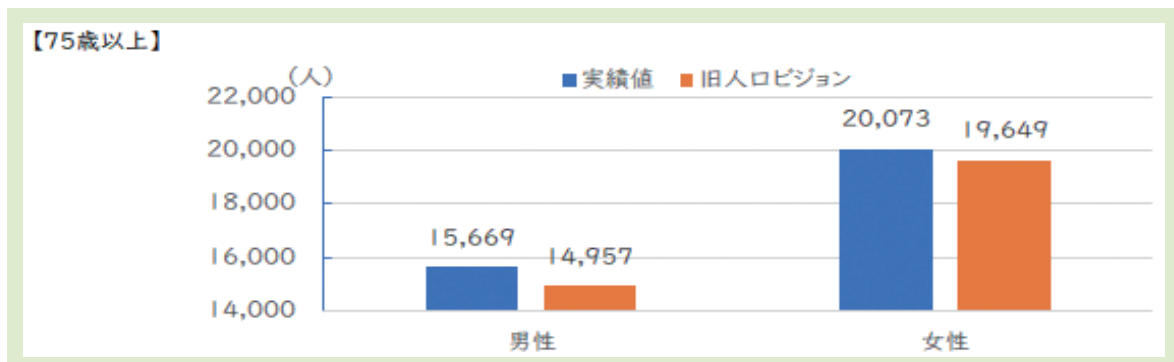
【図表 住民基本台帳による年齢5歳階級別人口と旧人口ビジョンとの比較】



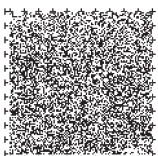
実績値が旧人口ビジョンを下回っており、0歳～4歳が少ない。



実績値が旧人口ビジョンを下回っており、25歳～39歳が少ない。また、女性が少ない。



実績値が旧人口ビジョンを上回っており、75歳以上が多い。また、女性が多い。



資料：春日部市「住民基本台帳人口」（2020年（令和2年）10月1日現在）
 および「春日部市まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン編」
 2015年度（平成27年度）策定に係る市資料

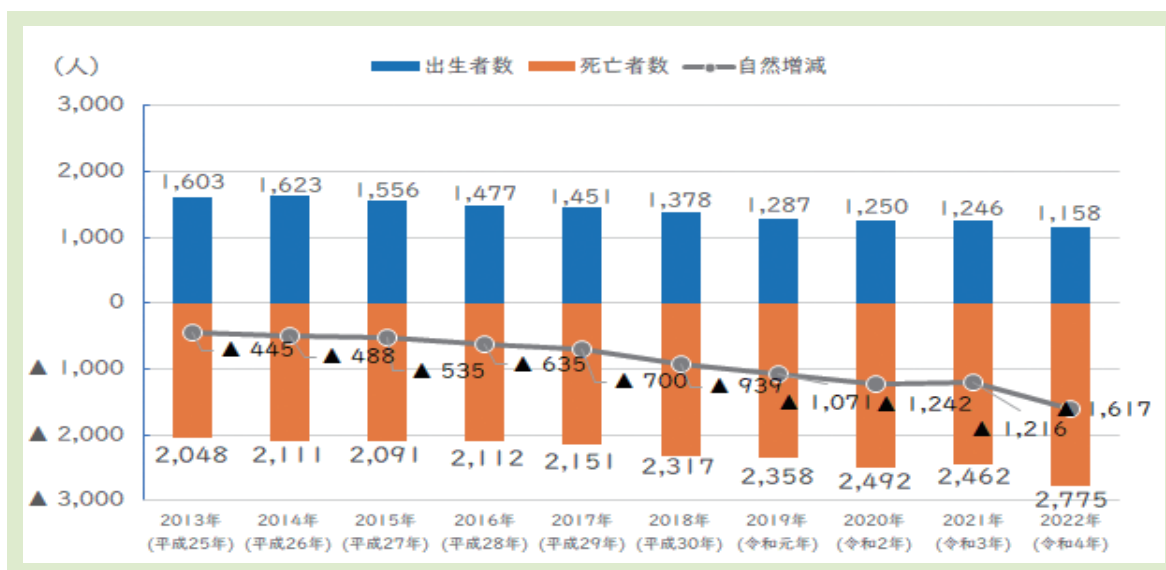
2. 人口動態

(1) 近年の人口動態の推移

本市は、出生者数が死亡者数を下回る「自然減」の状態にあります。2022年（令和4年）では、出生者数は年間1,158人であるのに対し、死亡者数は年間2,775人を数え、その差（自然減）は▲（マイナス）1,617人に達し、自然減の規模が拡大傾向にあります。

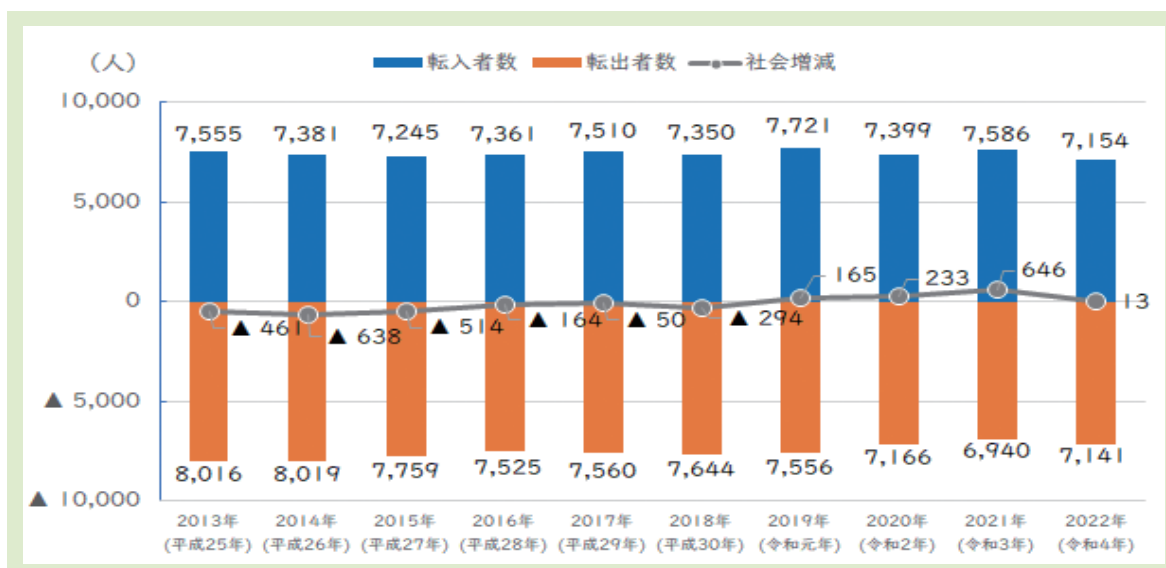
一方、本市では、2019年（令和元年）以降は、転入者数が転出者数を上回る「社会増」の状態に転じています。自然減の規模が拡大しつつある中、このような社会増が本市人口の維持に大きく貢献しています。

【図表 出生者数・死亡者数の推移】（再掲）

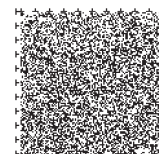


資料：春日部市「春日部市統計書」および市資料（各年10月1日現在）

【図表 転入者数・転出者数の推移】（再掲）



資料：春日部市「春日部市統計書」および市資料（各年10月1日現在）



(2) 婚姻の状況

本市における15歳から49歳の有配偶率（人口に対する配偶者がいる者の割合）を見ると、男女とも、30歳代から40歳代にかけて県の水準より5ポイント程度、もしくはそれ以上低くなっています。

【図表 本市と県の有配偶率比較】

	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳
埼玉県（男性）	0.17	3.80	24.94	49.43	61.31	65.23	65.21
春日部市（男性）	0.23	4.61	22.65	43.15	52.97	57.50	58.90
埼玉県（女性）	0.28	6.36	34.33	61.33	71.74	74.32	73.32
春日部市（女性）	0.19	6.32	30.95	55.41	66.89	67.12	67.87

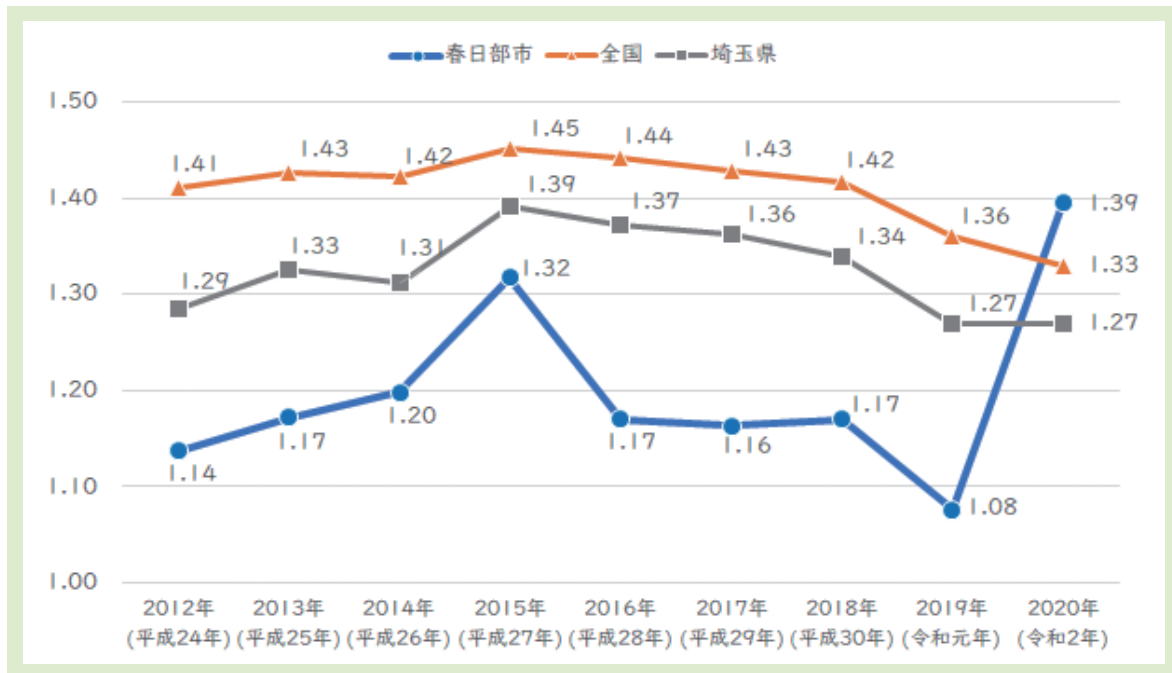
資料：総務省「国勢調査」2020年（令和2年）10月1日現在

(3) 母の年齢5歳階級別出生率

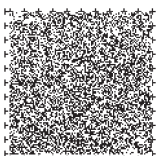
本市における合計特殊出生率は、2020年（令和2年）の埼玉県の集計によれば1.39であり、この年に限れば国（1.33）・県（1.27）の水準を上回っています。しかしながら、2019年（令和元年）までは国や県の水準を大きく下回っていたことから、今後も動向を注視していく必要があります。

2019年（令和元年）の母の年齢5歳階級別出生率は30歳代（30歳～34歳および35歳～39歳）においては約0.1ポイントの差があり、結果的に合計特殊出生率の国・県水準との差につながっていたと考えられます。

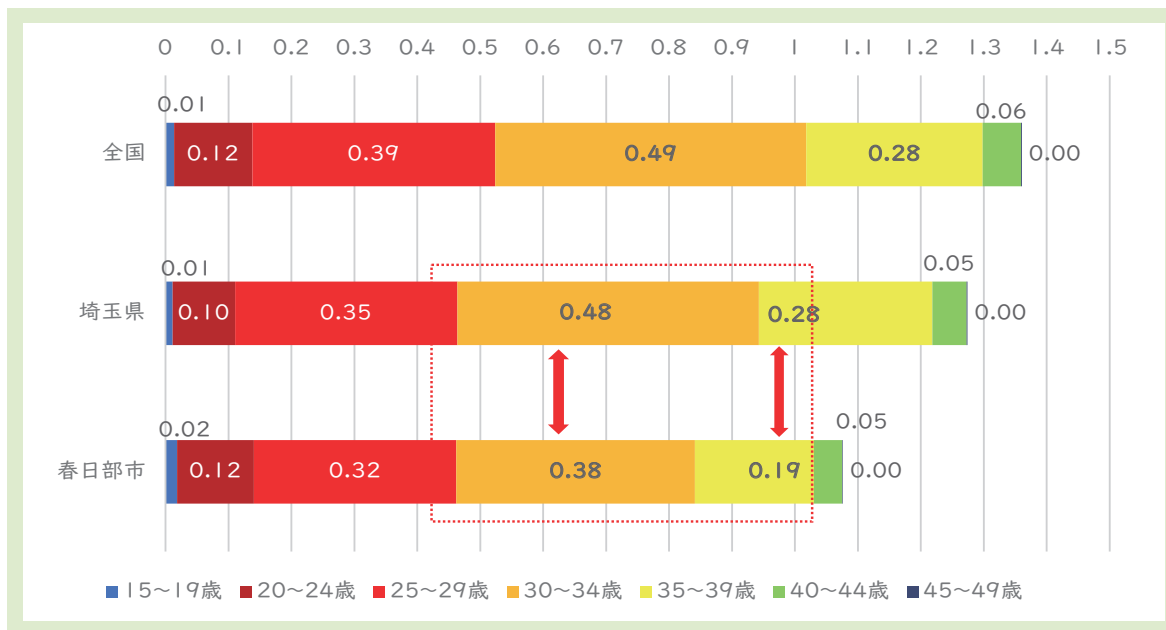
【図表 合計特殊出生率の推移】（再掲）



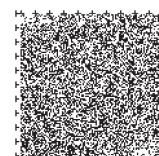
資料：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」



【図表 母の年齢5歳階級別出生率の比較】



資料：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」2019年（令和元年）



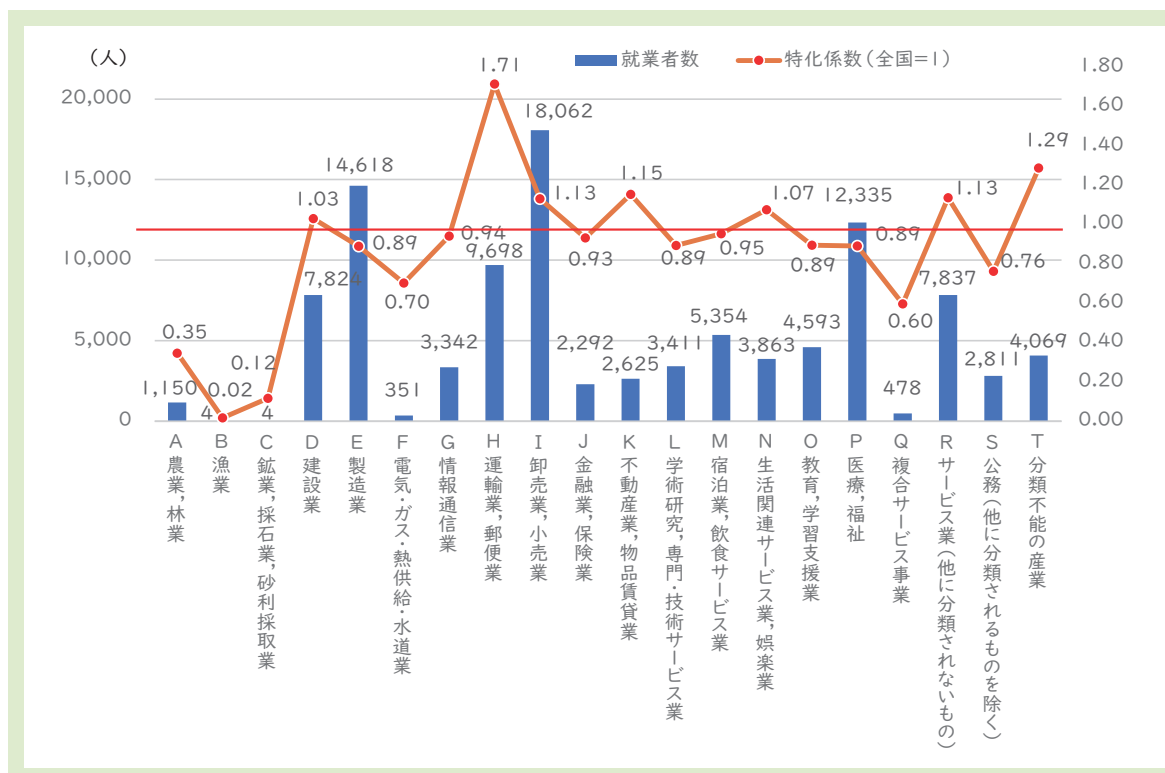
第3章 就業および従業人口

1. 就業の状況

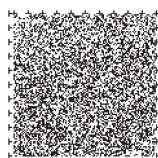
(1) 産業大分類別就業者数の状況

本市に常住する就業者数を産業大分類別に見ると、就業者の実数では、I 卸売業、小売業が18,062人で最も多く、次いでE 製造業が14,618人で続いています。一方、就業者の総数に占める割合を全国の水準を1とした特化係数で見ると、H 運輸業、郵便業が1.71（運輸業、郵便業に就業する者の割合が全国の水準の1.71倍）で最も高く、K 不動産業、物品賃貸業が1.15で続く結果となっています。

【図表 産業大分類別就業者数および特化係数】



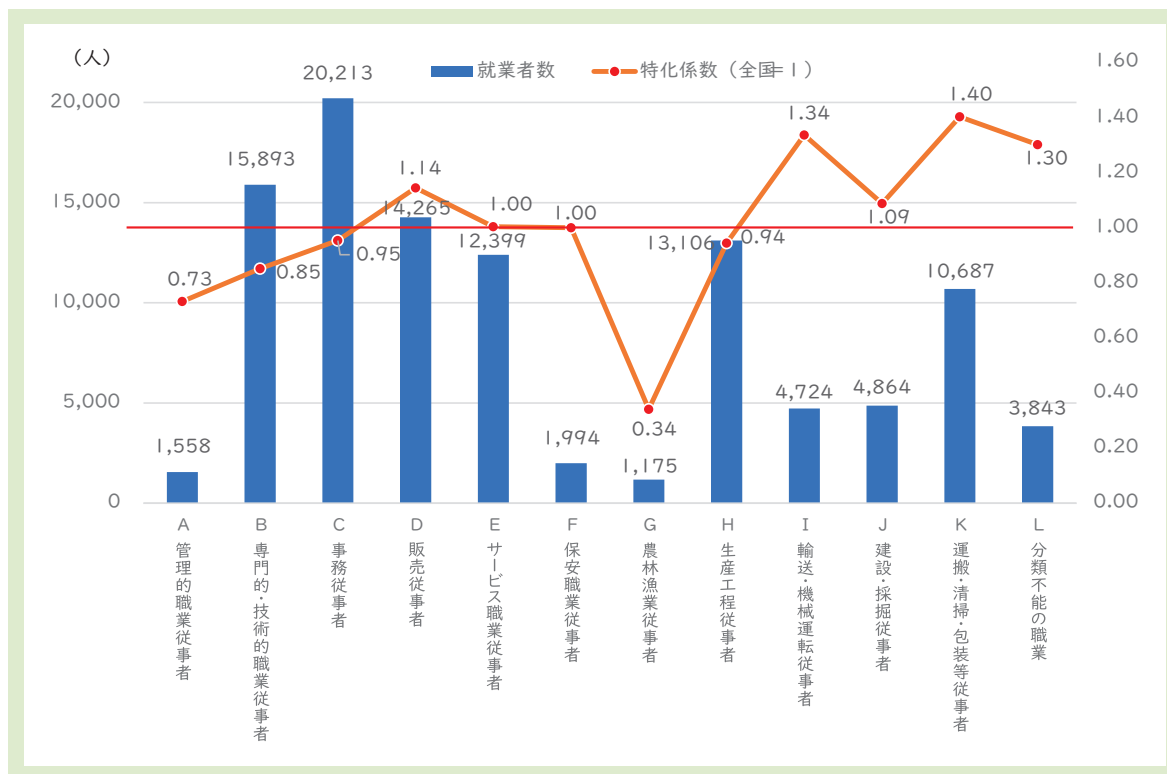
資料：総務省「国勢調査」2020年（令和2年）10月1日現在



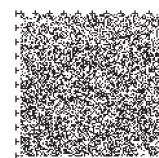
(2) 職業大分類別就業者数の状況

本市に常住する就業者数を職業大分類別に見ると、就業者の実数では、C 事務従事者が 20,213 人で最も多く、次いで B 専門的・技術的職業従事者が 15,893 人で続いています。一方、就業者の総数に占める割合を全国の水準を 1 とした特化係数で見ると、K 運搬・清掃・包装等従事者が 1.40（運搬・清掃・包装等従事者の割合が国の水準の 1.40 倍）で最も高く、I 輸送・機械運転従事者が 1.34 で続く結果となっています。

【図表 職業大分類別就業者数および特化係数】



資料：総務省「国勢調査」2020年（令和2年）10月1日現在

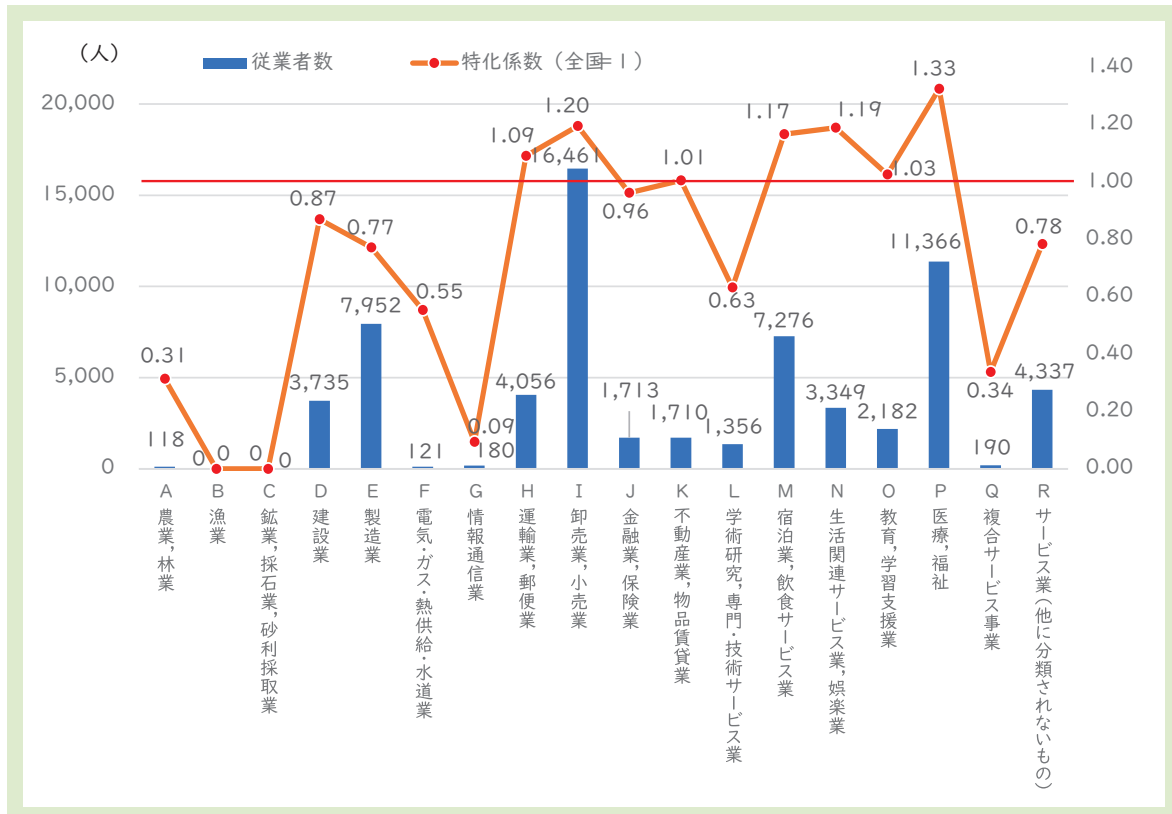


2. 従業の状況

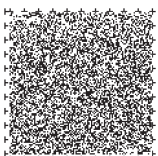
(1) 産業大分類別従業者数の状況

本市で従業する従業者数を産業大分類別で見ると、従業者の実数では、I 卸売業、小売業が16,461人で最も多く、次いでP 医療、福祉が11,366人で続いています。従業者の総数に占める割合を全国の水準を1とした特化係数で見ると、P 医療、福祉が1.33（医療、福祉に従業する者の割合が国の水準の1.33倍）で最も高く、I 卸売業、小売業が1.20で続く結果となっています。

【図表 産業大分類別従業者数および特化係数】



資料：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」2016年（平成28年）6月30日現在

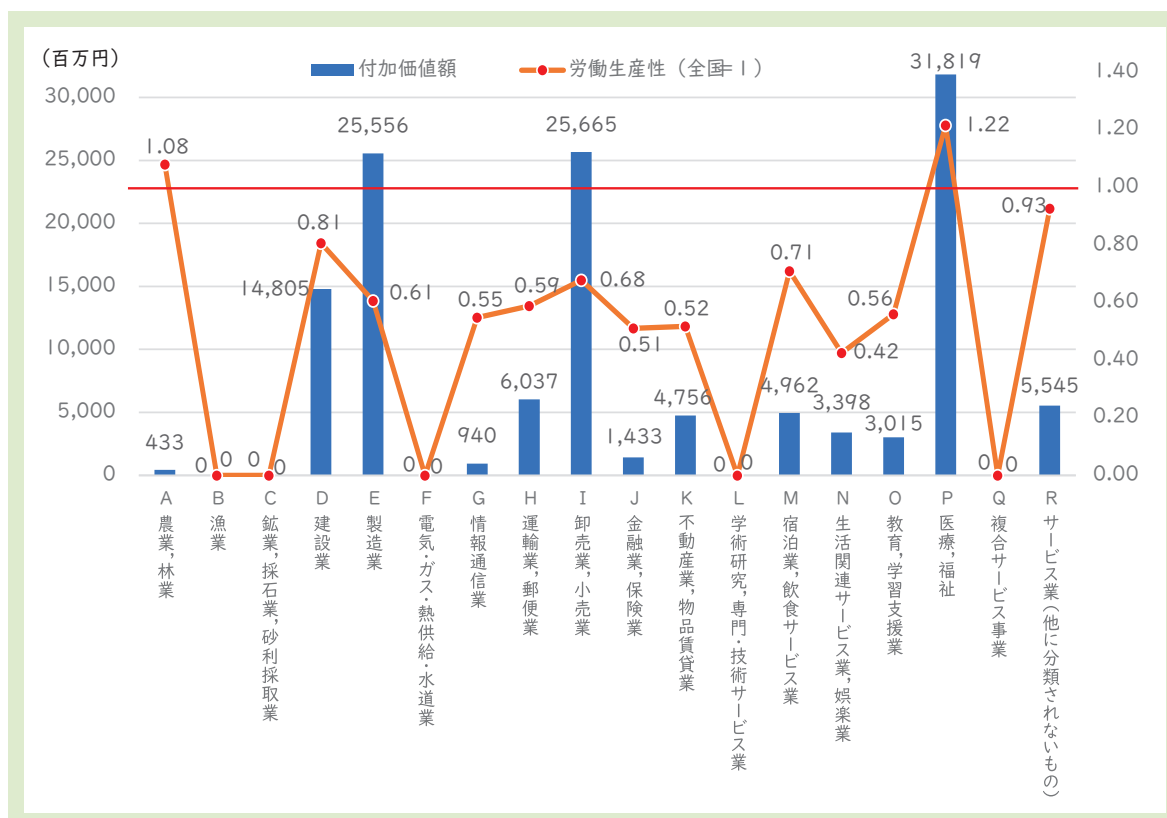


(2) 産業大分類別付加価値額と労働生産性

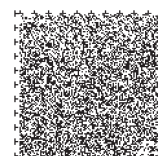
本市産業の付加価値額を産業大分類別に見ると、付加価値額の実数では、P 医療、福祉が 31,819 百万円で最も多く、次いでI 卸売業、小売業が 25,665 百万円、E 製造業が 25,556 百万円と同水準で続いています。

次に、国の水準を1とした労働生産性を産業大分類別に見ると、P 医療、福祉が 1.22 で最も高く、効率の良い産業となっています。A 農業、林業については、付加価値額は 433 百万円と大きな規模ではありませんが、労働生産性は 1.08 であり、相対的に見て効率の良い営農が行われていると見られます。

【図表 産業大分類別付加価値額と労働生産性】



資料：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」2016年（平成28年）6月30日現在



第4章 市民の希望等

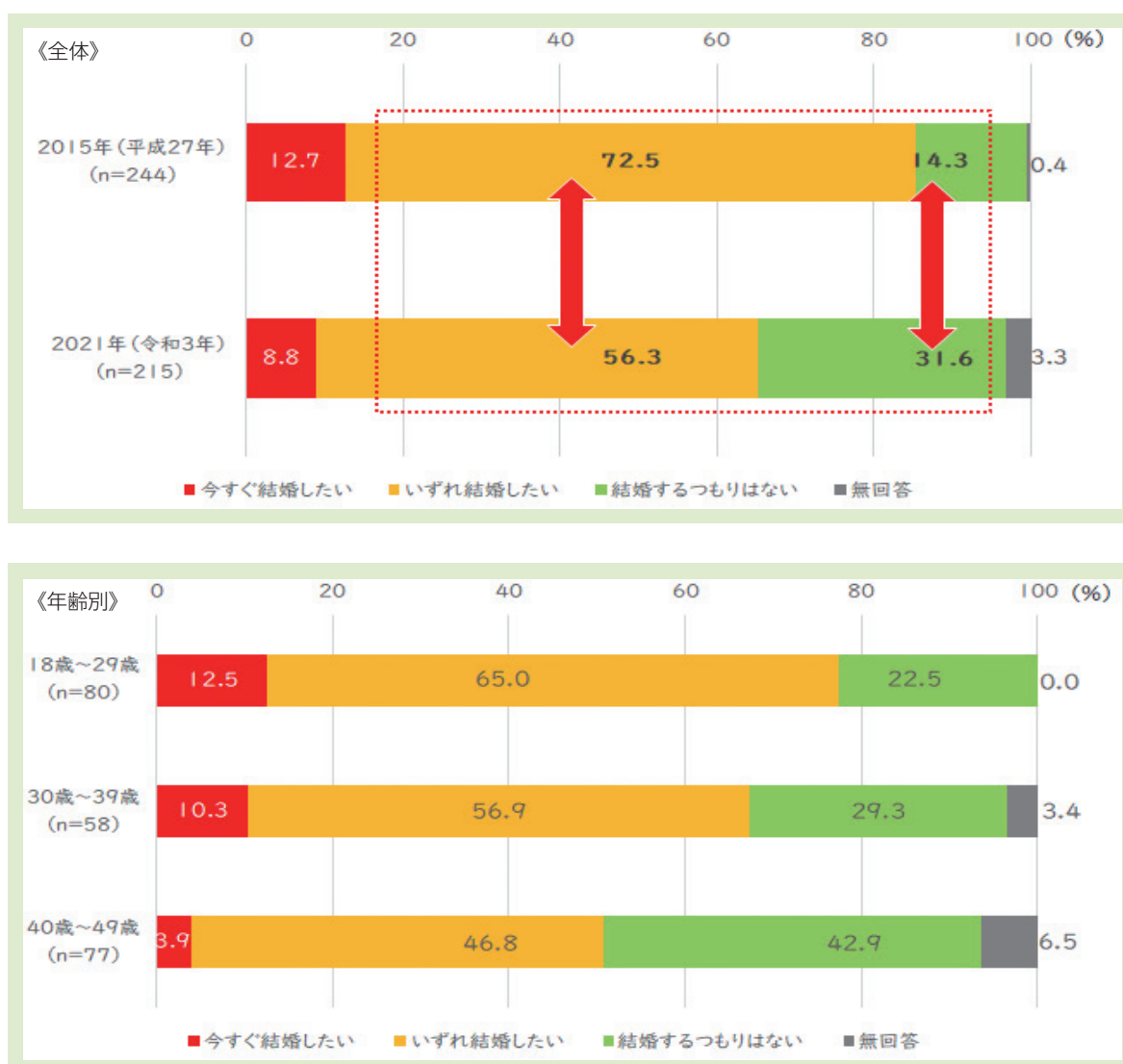
1. 結婚や子どもを持つことに対する考え方

(1) 結婚に対する考え方

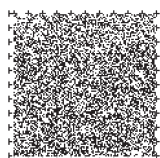
本市が過去に実施した「結婚・出産・子育てアンケート」（2015年（平成27年）、以下「H27アンケート」という。）と、本計画策定に際し実施した「市民意識調査」（2021年（令和3年）、以下「R3アンケート」という。）を比較すると、H27アンケートでは「今すぐ結婚したい」、「いずれ結婚したい」の合計が85.2%に達していたのに対し、R3アンケートでは65.1%に留まって20ポイント以上低下しています。

「結婚するつもりはない」はR3アンケートでは31.6%に達しており、年齢が上がるほどに高い傾向にあります。

【図表 結婚に対する考え方】



資料：春日部市「結婚・出産・子育てアンケート」（2015年（平成27年））および「市民意識調査」（2021年（令和3年））

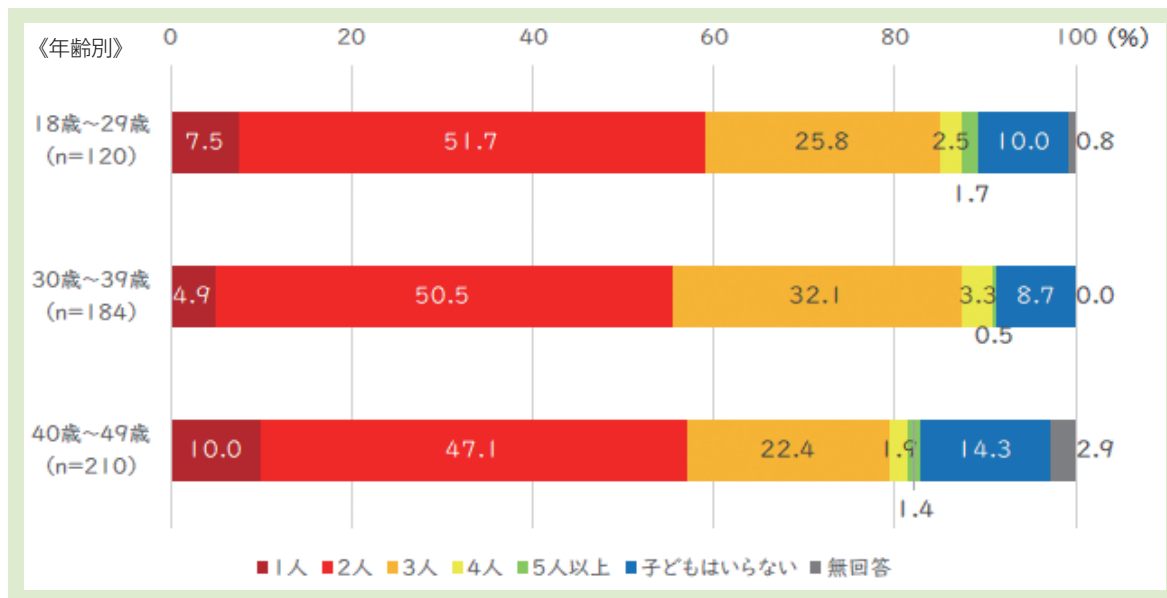
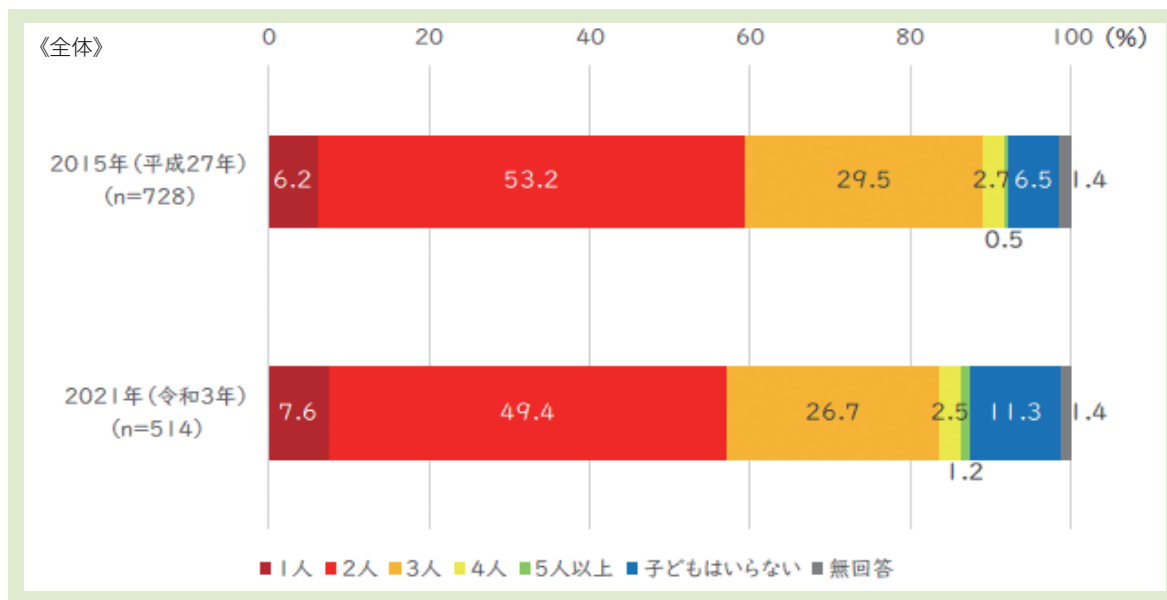


(2) 理想とする子どもの数

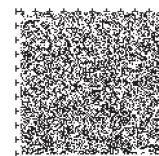
理想とする子どもの数については、H27 アンケートと R 3 アンケートで大きな傾向の差はありませんが、「(理想とする子どもの数×回答者数) / (回答者数－無回答数)」から求めた「市民が理想とする子どもの数」については、H27 アンケートでは2.19人であったのに対し、R 3 アンケートでは2.05人とやや減少しています。

理想とする子どもの数について年齢別に見ると、30歳代で最も多くなる傾向にあります。

【図表 理想とする子どもの数】



資料：春日部市「結婚・出産・子育てアンケート」(2015年(平成27年))
および「市民意識調査」(2021年(令和3年))

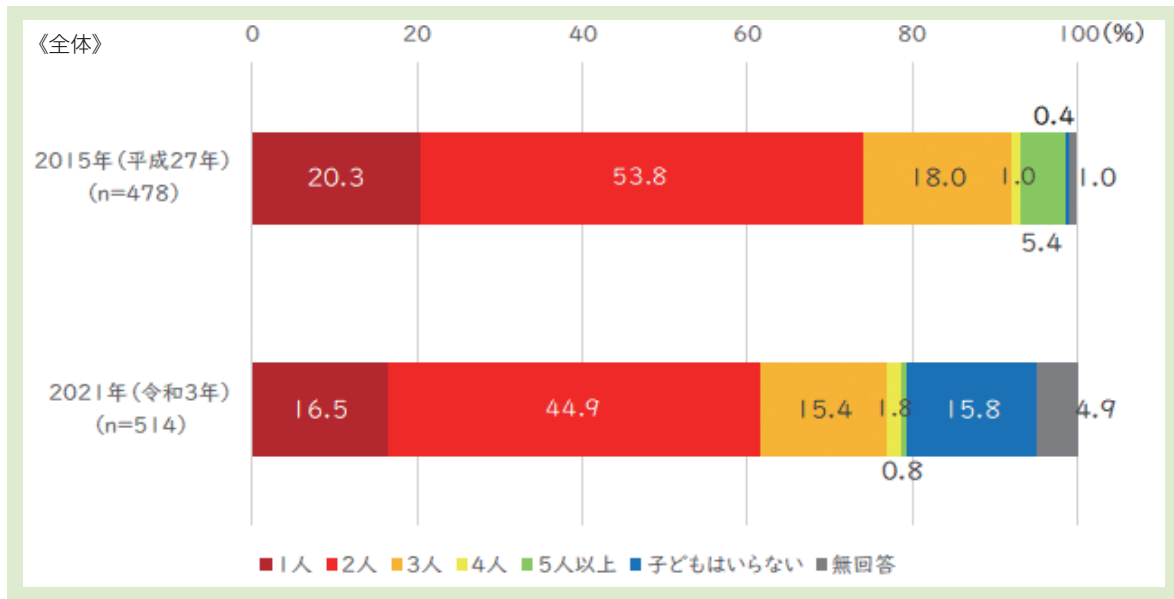


(3) 実際に育てる予定の子どもの数

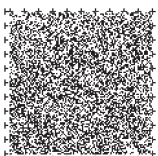
実際に育てる予定の子どもの数については、H27 アンケートと R 3 アンケートで大きな傾向の差があります。「(実際に育てる予定の子どもの数×回答者数) / (回答者数－無回答数)」から求めた「市民が実際に育てる予定の子どもの数」を見ると、H27 アンケートでは2.16 人であったのに対し、R 3 アンケートでは1.70 人と大幅に減少しています。

また、理想とする子どもの数と実際に育てる予定の子どもの数を比較すると、H27 アンケートでは理想2.19 人・実際2.16 人であったのに対し、R 3 アンケートでは理想2.05 人・実際1.70 人となっており、理想と現実(実際)との乖離が大きくなっています。

【図表 実際に育てる予定の子どもの数】



資料：春日部市「結婚・出産・子育てアンケート」(2015年(平成27年))
および「市民意識調査」(2021年(令和3年))



2. 市民の希望をかなえる出生率

R3 アンケート結果を踏まえて「市民の希望をかなえる出生率」を算出すると、図表の通り 1.317 となります。力を除くすべての値が減少したことにより、H27 アンケートの 1.764 から大幅に低下した結果となっています。

【図表 市民の希望をかなえる出生率】

項目		数値の出典等	2015年 (平成27年)	2021年 (令和3年)	単位
ア	18歳～34歳女性総数に対する有配偶者の割合	総務省「国勢調査」	36.8	26.8	%
イ	夫婦の予定子ども数	春日部市アンケート	2.16	1.70	人
ウ	18歳～34歳女性の独身者割合	総務省「国勢調査」	63.7	73.2	%
エ	独身者のうち結婚を希望する者の割合	春日部市アンケート	85.2	65.1	%
オ	独身者を含む市民が理想とする子どもの数	春日部市アンケート	2.19	2.05	人
カ	離死別等の影響	総務省「国勢調査」	88.9	91.9	%
◎	春日部市民の希望をかなえる出生率		1.764	1.317	

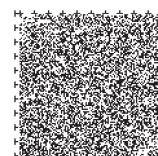
春日部市民の希望をかなえる出生率

＝（18歳～34歳女性総数に対する有配偶者の割合×夫婦の予定子ども数＋18歳～34歳女性の独身者割合×独身者のうち結婚を希望する者の割合×独身者を含む市民が理想とする子どもの数）×離死別等の影響

資料：総務省「国勢調査」（2020年（令和2年）10月1日現在）

春日部市「結婚・出産・子育てアンケート」（2015年（平成27年））、および「市民意識調査」（2021年（令和3年））

注）図中のア～カについては、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。このため、春日部市民の希望をかなえる出生率は、図中の数値により計算すると 1.3161 になりますが、実際は 1.317 になります。



第5章 将来人口を展望する上での課題とベース推計

1. 将来人口を展望する上での課題

2020年（令和2年）10月1日時点での本市人口は、国勢調査ベースでは229,792人、住民基本台帳人口ベースでは233,558人となっています。総人口は、社人研推計値226,219人（国勢調査ベース）や、旧人口ビジョン推計値233,147人（住民基本台帳人口ベース）のいずれも上回って推移しています。

しかしながら、推計よりも高齢化が進んでいることや、0歳～4歳人口が過少であるなど、将来人口を展望する上での課題が生じています。これらの課題が改善されなかった場合、本市の人口規模は、今後急速に縮小することが懸念されます。

このためここでは、上記を踏まえ、将来人口を展望する上での課題を示します。

（1）推計を上回る高齢化への対応

国勢調査によれば、2020年（令和2年）の本市高齢化率は33.2%に達し、社人研による推計を上回る高齢化が進行しています。このため、保健・医療、福祉分野での対応のみならず、生涯学習やコミュニティの分野における元気な高齢者の参画促進、意欲ある高齢者の就労支援などについて、政策的な対応が必要です。

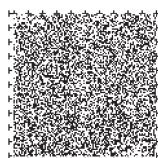
（2）推計を上回る少子化への対応

住民基本台帳によれば、2020年（令和2年）の本市0歳～4歳人口は、旧人口ビジョン推計値と比較して700人以上も過少となっています。子どもの減少は、将来の生産年齢人口の減少につながるだけでなく、今後、急速な人口減少と高齢化を引き起こします。このため、結婚・出産・子育てをしやすい環境づくりに対し、これまで以上に注力していく必要があります。

（3）子どもを産み育てやすい環境づくり

本市の合計特殊出生率は、2019年（令和元年）までは国・県・近隣市を下回る水準にあり、2019年（令和元年）には1.08となっていました。出生率が国・県の水準を大きく下回る傾向がみられたことから、子どもを産み育てやすい環境づくりに努めていく必要があります。

また、R3アンケートによれば、「結婚するつもりはない」人が大幅に増加するとともに、実際に育てる予定の子どもの数が減少して、理想と現実の乖離が拡大していることから、対象となる世代のニーズを踏まえた施策の推進が必要です。



(4) 子育て世代移住・定住のさらなる促進

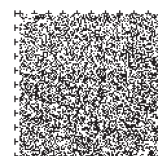
住民基本台帳によれば、本市は、2019年（令和元年）以降社会増に転じています。

2021年（令和3年）には、さいたま市・川口市・草加市・越谷市といった近隣市や、東京都特別区部に対して転入超過に転じ、若年層も社会増に転じています。この機会をとらえ、今後も子育て世代の移住・定住を促進し、社会動態のさらなる改善を図っていく必要があります。

(5) 仕事の育成と就業の促進

市民の就業状況を見ると、産業別では卸売業・小売業に就業する人が多く、職業別では事務従事者が多くなっています。また、市内産業の状況を見ると、産業別では卸売業・小売業に従業する人が多くなっており、医療・福祉では付加価値額・労働生産性とも高くなっています。

一方、本市の場合は一人当たりの市民所得が県の水準より低い状況が一貫して続いており、市内における“稼げる仕事”の育成促進と、就業促進が重要と考えられます。



2. ベース推計（現在の状況のまま推移したケース）

将来人口を展望する上での課題が解決されず、本市の人口動態などが現状のまま推移したケースをベース推計とします。このベース推計は、次の条件のもと社人研推計と同様にコーホート要因法により算出します。

【推計条件】

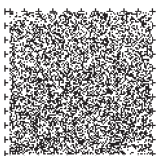
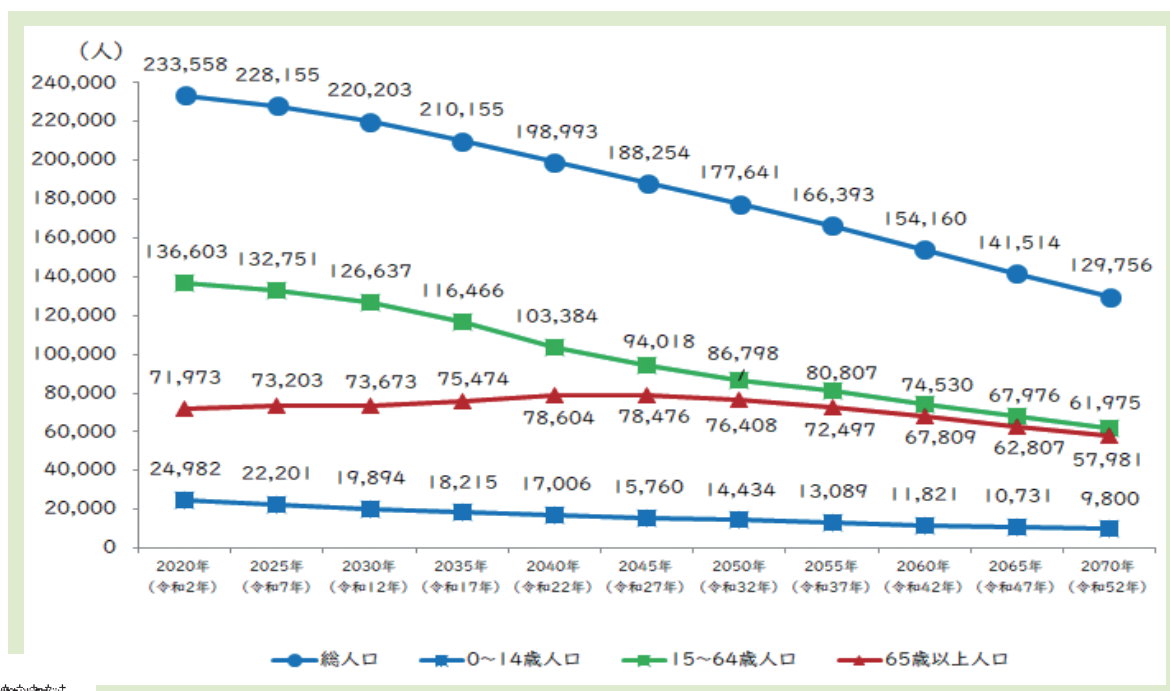
- ア 合計特殊出生率：近年の傾向が今後も継続し、2016年（平成28年）～2020年（令和2年）の5か年平均（1.194）から変化しないと想定する。
- イ 純移動率：近年の傾向が今後も継続し、住民基本台帳から算出した2016年（平成28年）～2021年（令和3年）の変化率から変化しないと想定する。
- ウ 生残率・0～4歳性比：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」_春日部市の仮定値に準拠する。
- エ 開発人口：見込まないものとする。

【推計結果】

推計の結果、総人口は、2060年（令和42年）に154,160人、2070年（令和52年）に129,756人となります。それぞれ、2020年（令和2年）10月1日現在における本市の住民基本台帳人口233,558人に対し66.0%、55.6%となります。

高齢化率は、2060年（令和42年）に44.0%、2070年（令和52年）に44.7%と上昇を続けます。一方、合計特殊出生率は、2016年（平成28年）～2020年（令和2年）の5か年平均（1.194）に留まることから、現状と同様に人口の自然減が続きます。また、概ね転出入均衡程度を維持することになり、人口の自然減を社会増で補えない状態が続きます。

【図表 ベース推計（現在の状況のまま推移したケース）の推計結果】



3. 将来人口を展望する上での方向性

本市の将来人口を展望する上では、1. 将来人口を展望する上での課題に示した通り、(1) 高齢化への対応、(2) 少子化への対応、(3) 子どもを産み育てやすい環境づくり、(4) 子育て世代移住・定住のさらなる促進、(5) 仕事の育成と就業の促進が課題となります。

特に重要となるのは、人口の現状やアンケート結果等から、低い合計特殊出生率への対策であると考えられます。そのため、結婚・出産・子育てを切れ目なく支援する施策を展開するとともに、雇用環境を充実させ、市民の希望をかなえる出生率を実現していくことが必要です。

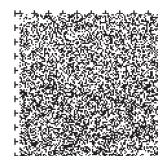
また、本市では転入者数が転出者数を上回る社会増の状態に転じており、20歳～39歳の純移動状況にも大幅な改善が見られていますが、引き続き、この年齢層の移住・定住促進が必要です。

そのため、まちづくりの施策を充実させ、安心安全なまちづくりを行うとともに、土地利用の効率化と産業の振興による職住近接のコンパクトで魅力的な都市づくりを推進します。そして、若年層の転入を促進し、人の流れをつくり出して、活気のある地域をつくり出します。

以上のことから、将来人口を展望する上での方向性を次の通り定めます。

市民の希望をかなえる出生率の実現を目指します。

産業を活性化して雇用を生み出すとともに、若い人の居住を確保し、人の流れをつくり出します。



第6章 人口の将来展望

1. 人口の将来展望に向けたシミュレーション

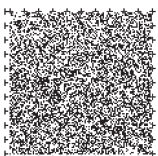
ベース推計では、本市の人口動態などが現状のまま推移したケースを想定しました。その結果、総人口は、2060年（令和42年）に154,160人、2070年（令和52年）に129,756人となりました。

ここでは、将来人口を展望する上での課題が解決に向かい、合計特殊出生率の向上が果たされたケースや、まちづくり事業などによる人口流入が果たされたケースなどにつき、推計条件を変化させたシミュレーションを実施します。

このシミュレーションは、ベース推計と同様に、コーホート要因法を用いて行います。今回のシミュレーションでは、コーホート要因法によって得られた人口にまちづくり事業などによる流入人口（開発人口）を加えた人口を、将来における本市の人口としています。シミュレーションに共通する基準人口と推計期間等は、次の通りです。

【共通事項】

- 基準人口：2020年（令和2年）10月1日時点の春日部市住民基本台帳人口
- 推計期間：2070年（令和52年）まで
- 推計人口：総人口、年齢3区分別人口



(1) ケース1（合計特殊出生率の向上が果たされた場合）

合計特殊出生率が、2016年（平成28年）～2020年（令和2年）の5か年平均（1.194）から上昇し、2030年（令和12年）までに市民の希望をかなえる出生率（1.317）に達したケースを推計します。

【推計条件】

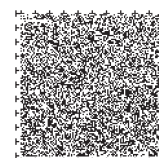
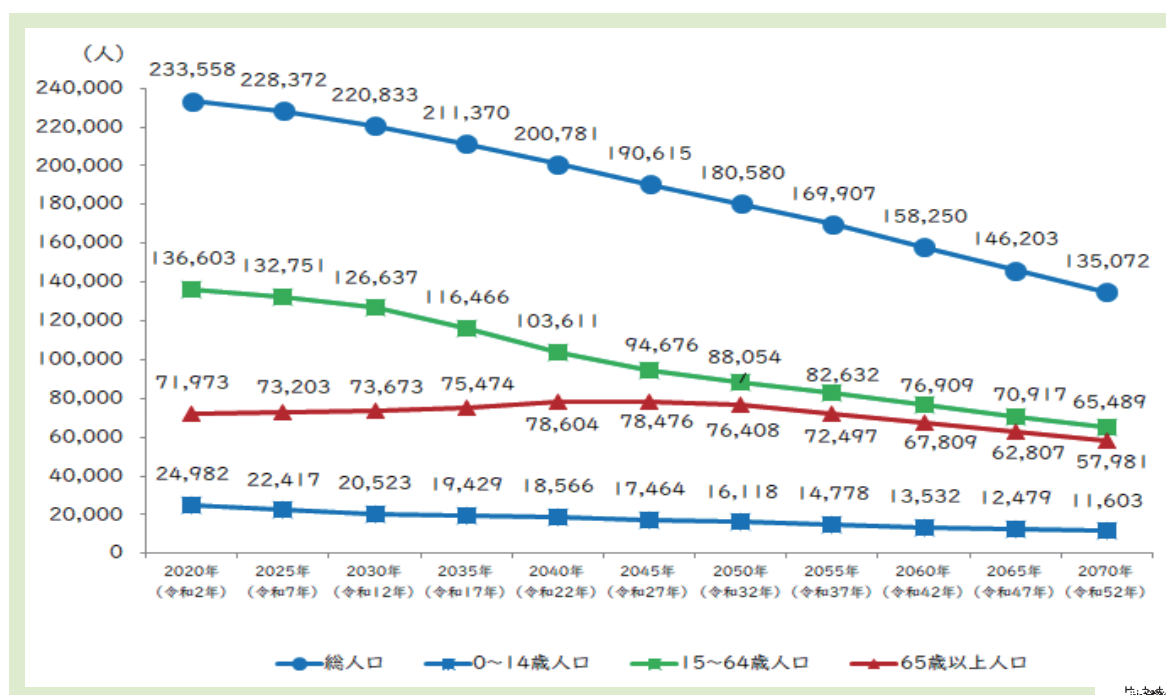
- ア 合計特殊出生率：2016年（平成28年）～2020年（令和2年）の5か年平均（1.194）から、2030年（令和12年）までに市民の希望をかなえる出生率（1.317）まで上昇し、その後は変化しないと想定する。
- イ 純移動率：近年の傾向が今後も継続し、住民基本台帳から算出した2016年（平成28年）～2021年（令和3年）の変化率から変化しないと想定する。
- ウ 生残率・0～4歳性比：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」_春日部市の仮定値に準拠する。
- エ 開発人口：見込まないものとする。

【推計結果】

推計の結果、総人口は、2060年（令和42年）に158,250人、2070年（令和52年）に135,072人となります。それぞれ、2020年（令和2年）10月1日現在における本市の住民基本台帳人口233,558人に対し67.8%、57.8%となります。

高齢化率は、2060年（令和42年）に42.8%、2070年（令和52年）に42.9%と上昇傾向が抑制されます。一方、合計特殊出生率は、2016年（平成28年）～2020年（令和2年）の5か年平均（1.194）から2030年（令和12年）に市民の希望をかなえる出生率（1.317）まで上昇しますが、子どもを産み育てる世代が増加しないため、合計特殊出生率の上昇効果は限定的なものになります。

【図表 ケース1（合計特殊出生率の向上が果たされた場合）の推計結果】



(2) ケース2 (まちづくり事業などによる人口流入が果たされた場合)

旧人口ビジョンと同様に、春日部駅周辺における中心市街地まちづくり計画や鉄道の高架化、およびコンパクトで魅力あるまちづくりの効果による人口増加(19,000人程度)のほか、北春日部地区その他のまちづくり事業などによる人口流入が進んだケースを推計します。

【推計条件】

- ア 合計特殊出生率：近年の傾向が今後も継続し、2016年(平成28年)～2020年(令和2年)の5か年平均(1.194)から変化しないと想定する。
- イ 純移動率：近年の傾向が今後も継続し、住民基本台帳から算出した2016年(平成28年)～2021年(令和3年)の変化率から変化しないと想定する。
- ウ 生残率・0～4歳性比：社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」_春日部市の仮定値に準拠する。
- エ 開発人口：まちづくり事業による流入人口として、次を見込む。

①春日部駅周辺における中心市街地まちづくり計画や鉄道の高架化、およびコンパクトで魅力あるまちづくりの効果による増加人口【旧人口ビジョンに同じ】

- ◆ 2025年(令和7年)から事業効果が表れ、概ね2050年(令和32年)までに19,000人程度の増加を見込む。

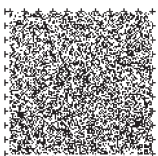
②北春日部地区その他のまちづくり事業などによる流入人口

- ◆ 2030年(令和12年)から事業効果が表れ、2060年(令和42年)までに10,000人程度の増加を見込む。
 - ・北春日部駅周辺地区土地区画整理事業
 - ・武里団地地区
 - ・赤沼・銚子口地区産業基盤整備事業
 - ・その他の流れをつくる産業振興とまちづくり事業

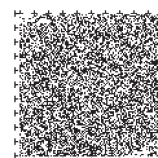
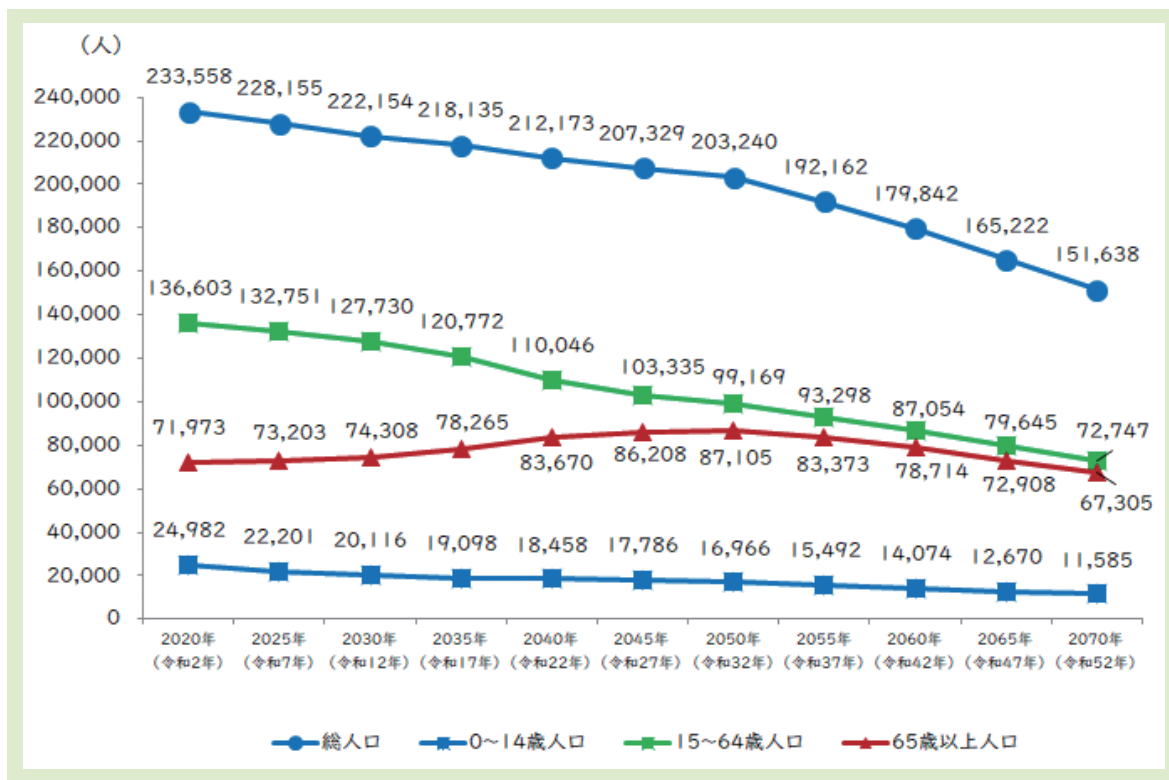
【推計結果】

推計の結果、総人口は、2060年(令和42年)に179,842人、2070年(令和52年)に151,638人となります。それぞれ、2020年(令和2年)10月1日現在における本市の住民基本台帳人口233,558人に対し77.0%、64.9%となります。

高齢化率は、2060年(令和42年)に43.8%、2070年(令和52年)に44.4%と上昇を続けます。一方、合計特殊出生率は、2016年(平成28年)～2020年(令和2年)の5か年平均(1.194)に留まることから、まちづくり事業による流入人口を見込むものの、現状と同様に人口の自然減が続きます。



【図表 ケース2（まちづくり事業などによる人口流入が果たされた場合）の推計結果】



(3) ケース3 (ケース1とケース2がともに実現された場合)

旧人口ビジョンと同様に、合計特殊出生率の向上とまちづくり事業などによる人口流入がともに果たされたケースを推計します。

【推計条件】

- ア 合計特殊出生率：2016年（平成28年）～2020年（令和2年）の5か年平均（1.194）から、2030年（令和12年）までに市民の希望をかなえる出生率（1.317）まで上昇し、その後は変化しないと想定する。
- イ 純移動率：近年の傾向が今後も継続し、住民基本台帳から算出した2016年（平成28年）～2021年（令和3年）の変化率から変化しないと想定する。
- ウ 生残率・0～4歳性比：社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」_春日部市の仮定値に準拠する。
- エ 開発人口：まちづくり事業による流入人口として、次を見込む。

①春日部駅周辺における中心市街地まちづくり計画や鉄道の高架化、およびコンパクトで魅力あるまちづくりの効果による増加人口【旧人口ビジョンに同じ】

- ◆ 2025年（令和7年）から事業効果が表れ、概ね2050年（令和32年）までに19,000人程度の増加を見込む。

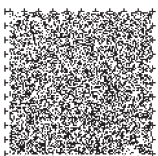
②北春日部地区その他のまちづくり事業などによる流入人口

- ◆ 2030年（令和12年）から事業効果が表れ、2060年（令和42年）までに10,000人程度の増加を見込む。
 - ・北春日部駅周辺地区土地区画整理事業
 - ・武里団地地区
 - ・赤沼・銚子口地区産業基盤整備事業
 - ・その他の人の流れをつくる産業振興とまちづくり事業

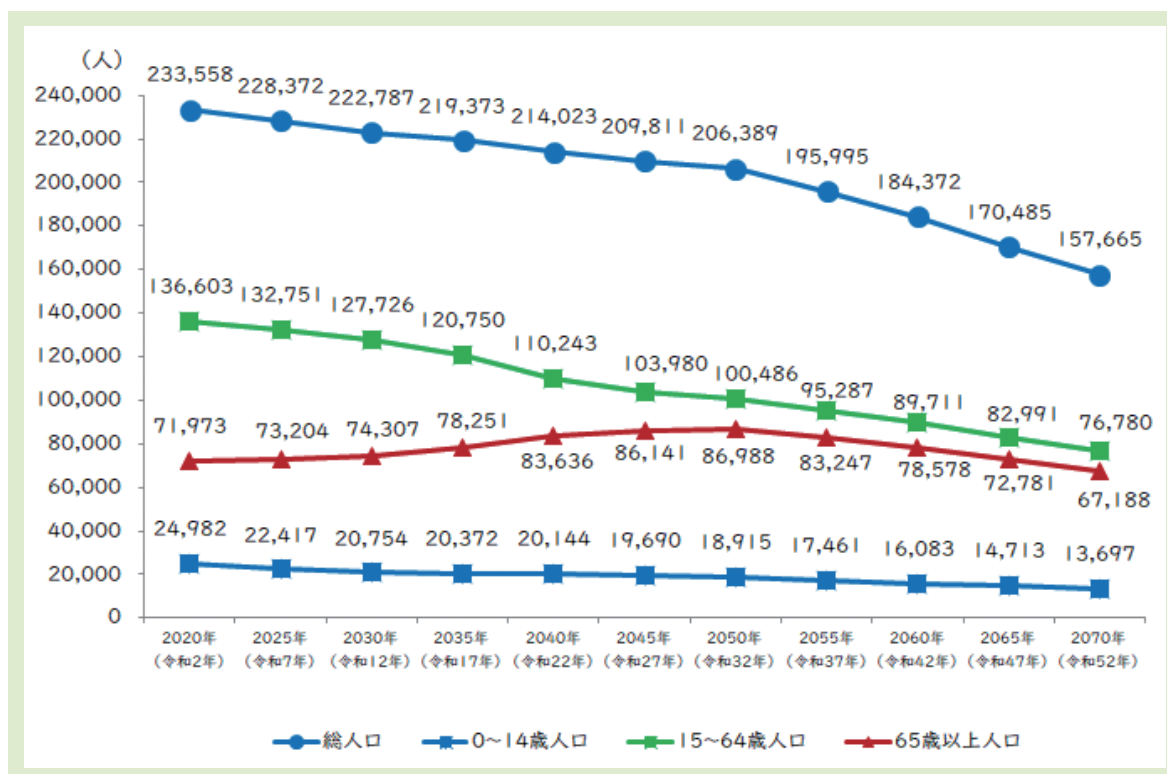
【推計結果】

推計の結果、総人口は、2060年（令和42年）に184,372人、2070年（令和52年）に157,665人となります。それぞれ、2020年（令和2年）10月1日現在における本市の住民基本台帳人口233,558人に対し78.9%、67.5%となります。

高齢化率は、2060年（令和42年）に42.6%、2070年（令和52年）も42.6%となり、上昇傾向に歯止めが掛かります。合計特殊出生率は、2016年（平成28年）～2020年（令和2年）の5か年平均（1.194）から2030年（令和12年）に市民の希望をかなえる出生率（1.317）まで上昇し、まちづくり事業などによる人口流入によって子どもを産み育てる世代が増加するため、合計特殊出生率の上昇効果が大きくなります。このため、ケース1やケース2と比較して、人口減少が抑制される結果となります。



【図表 ケース3（ケース1とケース2がともに実現された場合）の推計結果】



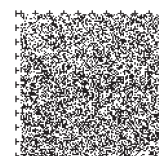
2. 人口の将来展望

シミュレーションの結果、総人口は、ケース3において最多となり、2060年（令和42年）に184,372人、2070年（令和52年）に157,665人となって、ケース1やケース2と比較して、人口減少が抑制される結果となります。また、ケース3では、高齢化率の上昇に歯止めが掛かります。このようなことから、ケース3を人口の将来展望として掲げるものとします。

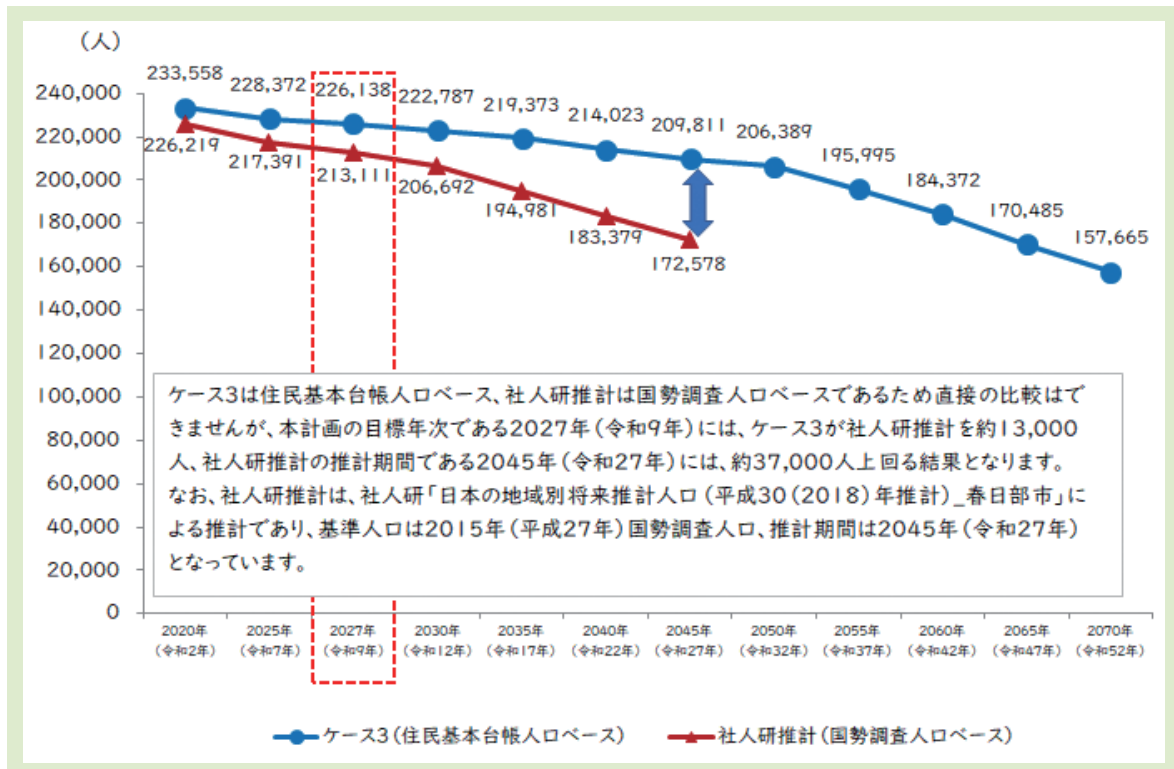
ケース3においても、2060年（令和42年）においては、旧人口ビジョン（2060年（令和42年）に総人口189,181人）から約5,000人の減となります。この主たる理由は、旧人口ビジョンが市民の希望をかなえる出生率として1.764を採用しているのに対し、本推計では1.317を採用していることによるものです。

長期的な視点から本市人口の減少を抑制するためには、まちづくり事業などによる人口流入に加え、合計特殊出生率のさらなる向上を図っていくことが重要となります。

次ページに、ケース3の総人口の推移と社人研推計およびベース推計の総人口の推移との比較を掲載します。



【図表 ケース3と社人研推計の総人口の推移の比較】



資料：社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)_春日部市」

【図表 ケース3とベース推計の総人口の推移の比較】

